

【5月の気象】

5月は、「風薫る五月」といわれるようにさわやかな風が吹き1年でも過ごしやすい時期のひとつです。同時に、この時期は季節の変わり目で気温の日変化が最も大きい時期です。特に、移動性の高気圧に覆われて晴れた朝には、放射冷却による晩霜のおそれもありますので注意が必要です。

5月はさわやかなイメージがありますが、気温の日変化が大きいように、気象の変化も大きい時期です。五月晴れが続き、空気の乾燥や少雨で農作物に被害が出ることもあれば、低気圧が発達しながら日本海を通過することにより、広い範囲で天気が急激に変わり、暴風・しけとなることもあります。また、上空に冷たい空気が入ると大気の状態が不安定となり、激しい雷や突風とともに“ひょう”が降ることもあります。

【気象用語】「黄砂」とは

今年の4月12日から13日にかけて、日本の広い範囲で黄砂を観測し、松山でも12日15時に視程(*1)10キロメートルの黄砂を観測しました。この黄砂について松山地方気象台では「黄砂に関する愛媛県気象情報」を発表し注意を呼びかけました。

黄砂現象とは、東アジアの砂漠域(ゴビ砂漠など)や黄土地帯から強風により吹き上げられた多量の砂やちりが上空の風によって運ばれ浮遊しつつ降下する現象を言います(図1)。

日本において、黄砂は屋外の洗濯物や車などを汚す場合や、視程を悪化させ交通機関などに影響を与える場合があります。

気象庁では黄砂の観測や解析及び予測を行っています。気象庁ホームページで黄砂の実況、予測等が「黄砂情報」として見ることができます。テレビ等で黄砂に関する情報を見聞きしたら、ぜひ、気象庁ホームページをご確認ください。

上記の「黄砂情報」にある気象衛星ひまわりのトゥルーカラー再現画像(*2)を参考に掲載します(図2)。黄砂の状況(陸地以外に茶色ぼくく見えている所)を確認することができます。

気象庁ホームページ「黄砂情報」アドレス

<https://www.data.jma.go.jp/env/kosa/fcst/>

*1「視程」とは、水平方向の見通しの効く距離です。

*2「トゥルーカラー再現画像」とは、可視画像、近赤外画像を組み合わせた画像です。

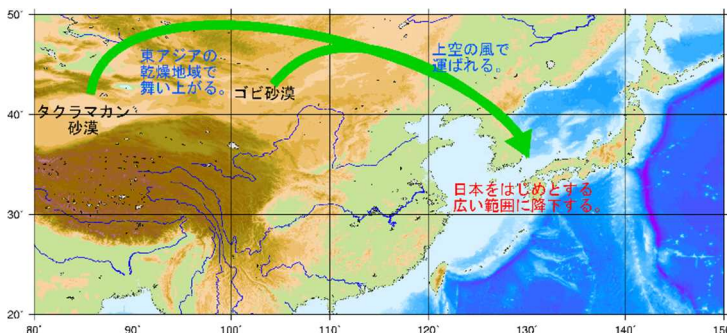


図1 黄砂解説図

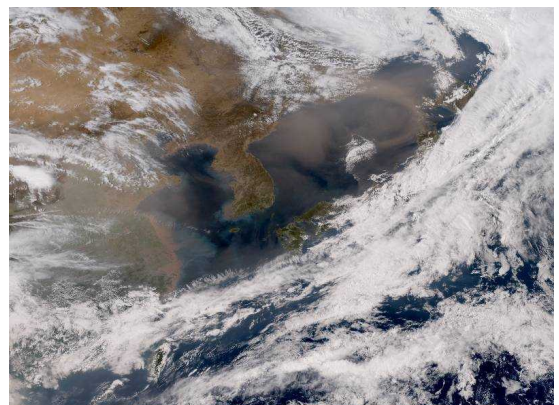


図2 トゥルーカラー再現画像
(2023年4月12日15時)